



「失礼しまーす！新しくきた娘達の改装データと
改装用の新型を持ってきました！」

「書類は後でいい？先に私で新型のテストをするんですか？」

「それは構いませんけど、ここでしてもいいんですか？」

「多分汚れちゃいますよ…はい、わかりました。では、早速試してみます！」

「うとと…すみません、ちょっと手伝ってもらってもいいですか？
一人だとやりづらくて！」



「きゃっー！……もお、相変わらず乱暴ですねっ
わさわざ破らなくても命令があれば脱いだのに♡」
「本当にストッキングを破くの好きですよね♡
まあ、そういう所も好きですけど♡」

「えーと、対象の艦娘の準備ができたなら次は…はい！
そこのスイッチを押してください！」
「そうしたら、センサーが自動的に艦娘を感知して改装にかかりますよ」



「んっ…あんっ♡こっうやっつて最初は優しく色んな所を優しく愛撫していきます♡」
「おっぱいやおへそ、首筋や背筋、おまんこにお尻♡艦娘によって性感帯が違いますから、そこを探り出します♡」
「そして見つけ出したら、ソコを重点的に愛撫していきます♡ちなみに私は背筋が弱いです♡…ふふっ、知ってますよね♡」

グイッ

グイッ

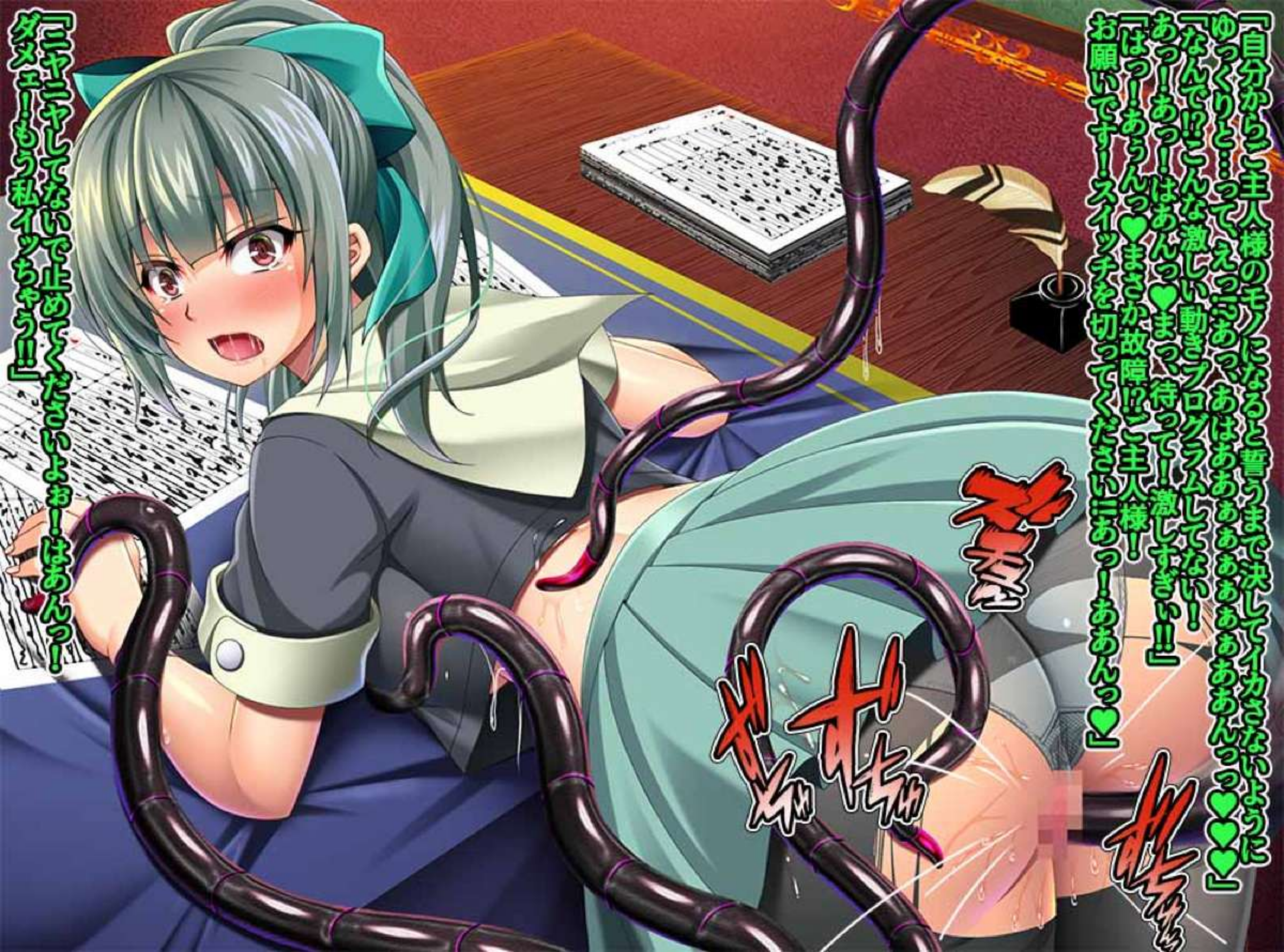
グイッ

グイッ

「ある程度艦娘の好みがわかったら媚薬入りのローションを性感帯やおまんこに塗りつけます♡そしてそれが終わったらいよいよ挿入です♡」

「自分からして主人様のモノになると誓うまで決してイカさないように
ゆっくりと……って、えっ……あっ、あはああああああんっっっ♥♥♥」
「なんで!? こんな激しい動きプログラムしてない!」
「あっ! あっ! はあんっ♥♥まっ、待って! 激しすぎ!!」
「はっ! あうんっ♥♥まさか故障!? ご主人様!」
「お願いです! スイッチを切ってください! あっ! ああんっ♥♥」

「ニヤニヤしてないで止めてくださいよお! はあんっ!
ダメエー! もう私イッチちゃう!!」





「私を機械でイカせたお詫ひに、今日はたっぷりおマンロしていただきますね♥
ご主人様♥」

「もお！今日のお仕事は終わりです！書類は明日読んでください」

「ふふっ♡やっぱりいつちの姿のほうが解放感がありますね♡」
「あの姿のほうがみんな簡単に騙されてくれて
改装させてくれるから便利なんですけどね」

「それより♡主人様あ♡早くおチンポください♡
ほら、私のおマンコ、トロトロで食べごろですよ♡」
「私の子宮めがけていっばい♡主人様の精子を撃ち込んでください♡」





「んああああああああああああああんっ♡♡キタキタア！
主人様のおチンポ入ってきたあ♡」
「突きさされるたびに全身を貫く様なこの快感♡
機械や他の男では絶対に味わえないわあ♡♡」
「あっ♡あっ♡ああんっ♡イイ！イイ！気持ちいい♡あっ！そこイイです♡
膣内グリグリ好き♡」

ぬる...

「このおチンポもらえるなら昔の仲間なんていくらでも主人様の奴隷に
改造しちゃいます♡」
「主人様も気持ちいいですか？...って何持ってるの？！...まさか！」

「ひああああああんっ♡ダメェ♡背筋と一緒には突かないでえ♡
頭おかしくなっっちゃうう♡」
「あっ♡はあっ♡すっごいー♡コレすっごい♡あっ、あっ♡
こんなのされたら女の子は絶対に逆らえなくなっっちゃう♡」
「肌が触れてないところまで空気に触れるだけで感じてきたあ♡
全身が性感帯になったみたい♡」

グイッ

グニッ

グニッ

グニッ

グニッ

グニッ

グニッ

グニッ

グニッ

グニッ

「もうダメ！私またイツちやう!!私の腔内に♡主人様のせーしください♡
夕張の子宮を♡主人様ので真っ白に改装してください♡」





















